

MORITA REPORT 2015

株主・投資家のみなさまへ

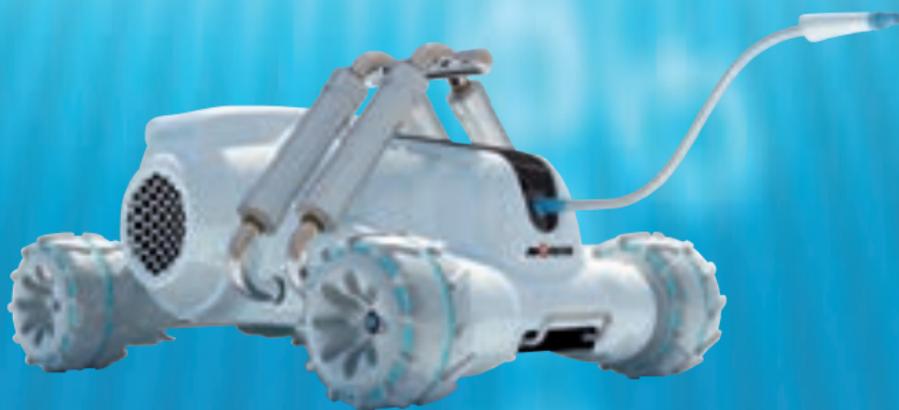
第82期 報告書

2014年4月1日から2015年3月31日まで



MORITA GROUP

人と地球のいのちを守る



MORITA

証券コード:6455

モリタトピックス

■ 世界最大級の消防防災展

INTERSCHUTZ 2015 (インターシュッツ2015) に出展

モリタグループは、本年6月8日から13日までドイツ・ハノーバーにおいて開催された5年に一度の世界最大級の消防防災展「INTERSCHUTZ 2015 (インターシュッツ2015)」に出展いたしました。今回、わたしたちが世界に紹介したのは、水を使わず防消火を行う消防車でした。モリタでは、大地震などの災害時に消火栓等が破損し、消火に用いる水の確保が困難な場合でも、空気から窒素濃度を高めた気体(NEA)を造りだし、防消火を行うことができる消防車「Miracle N7 (ミラクル エヌセブン)」を開発し、昨年9月に第1号車を日本原燃株式会社様に納入いたしました。今回は、「Miracle N7」を近未来型消防車にイメージしたミニチュアタイプを製作し、「Hobot-mini (ハボット ミニ)」と名付け出展いたしました。



水を使用せず、防消火を行う消防車
「Hobot-mini」

モデルとなった「Miracle N7」の特徴は、大災害時にダウンしてしまった既設消防設備のバックアップ消火設備としての役割を担うことや、災害現場での可燃性ガスによる爆発防止(希釈)設備として対応できる機能を備えていることにあります。また、消火のための窒素濃度を高めつつ、酸素濃度は短時間では人体にほとんど影響がないレベルで維持することができますので、人が立入る区域での活動も可能になるということです。今後は、石油備蓄基地や水損被害が危惧される博物館、美術館、重要文化財、データセンターなどで



Miracle N7 (ミラクル エヌセブン)

の需要が期待されます。

出展した「Hobot-mini」は、小さいながらも「Miracle N7」の機能をそのままに、窒素分離膜とコンプレッサーを搭載し、実際に災害現場を想定した消火実演も行いました。

また、消防車両の安全機能の向上として、今般、全周囲360°安全確認カメラシステム「モリタ アドバンスモニタ AMシリーズ」をクラリオン株式会社と共同開発し、このシステムを搭載した



「モリタ アドバンスモニタ AMシリーズ」
モニタ画面

30m先端屈折式はしご付消防自動車と13mブーム付多目的消防ポンプ自動車を出展いたしました。車体に取り付けた4台のカメラ映像は、独自の画像処理技術で高精度な合成画像として360°俯瞰（ふかん）表示され、運転者が不安を感じる車周辺視界を補助します。これによって、走行中や災害現場での安全性が一層高まり、消す身になったモリタの取り組みを紹介することができました。

今後も新しい技術で、「人と地球のいのちを守る」を追求してまいります。



30m先端屈折式はしご付消防自動車
「SUPER GYRO LADDER
MLLAH5-30WG」



13mブーム付多目的消防ポンプ自動車
「MORITA VARIOUS FIGHTER MVF13」

■ 火災弱者への最適消火装置 神奈川県茅ヶ崎市と共同開発

モリタ宮田工業は、本社がある神奈川県茅ヶ崎市と協力して、高齢者等の火災弱者を火災から守るために最適な、特別仕様の住宅用自動消火装置「スプリネックスミニ」を共同開発いたしました。

平成25年版消防白書によると、火災による死者の約4分の1は火災弱者であり自力避難が困難なことが推測される80歳以上の方です。また、夜間の死者は昼間の2倍以上で死亡原因の5割以上は逃げ遅れによるものです。火災弱者を守るには、いかに自動で素早く消火できるかですが、従来の消火装置の取付は高額で、電気工事も伴うため既存建物への設置は困難な場合があります。

特別仕様の「スプリネックスミニ」は、電池式で簡単に取り付けることができ、火災の警報をブザー音から音声に変更することで、よりはっきりと火災だとの認識を与えることができ、同時にフラッシュライトによる点滅で会話が聴こえにくい方でも異常を感じてもらえる仕組みにいたしました。この特別仕様の「スプリネックスミニ」は、同市が取り組む「防災まちぢから応援ツール」のひとつとして、市内の高齢者住宅への導入に向けた検証を進めています。



スプリネックスミニ本体
(標準品)

音声警報・フラッシュ警報装置別置型

- ・音声警報
- ・フラッシュ警報装置



■ 着るだけで腰の負担が軽くなる女性のための腰サポートインナー「calena (カレナ)」

当社と、慶應義塾大学 山崎信寿名誉教授及びグンゼ株式会社との3者連携により誕生した、着るだけで腰の負担が軽くなる、女性のための腰サポートインナー「calena (カレナ)」を昨年12月24日より販売開始いたしました。昨年9月に発表以降、第41回国際福祉機器展、第4回国際農業資材EXPO、HOSPEX Japan2014に出展するなど、介護福祉・農業・病院関係など幅広い分野の皆さまにご紹介し、反響をいただいております。

「calena (カレナ)」は、腰への負担が大きい前屈・中腰姿勢に、身体変化を利用して弾性生地強力伸縮力を発生させ、腰の筋肉をサポートいたします。また、女性が着るインナーとして、サポート機能だけでなく、女性ならではの着用感も大切にしました。「calena (カレナ)」が、中腰・前屈姿勢でのお仕事を頑張る女性の毎日をサポートいたします。

シリーズ商品「rakunie (ラクニエ)」とともに、当社グループのモリタ宮田工業またはモリタエコノスが主な販売元として取り扱っています。



女性のための腰サポートインナー
「rakunie calena (カレナ)」

腰部サポートウェア
「rakunie ラクニエ」

■ 新モデル「回転式電動塵芥収集車 E-SVN (イー・セブン)」を発表

モリタエコノスは、このたび「より安全に、使いやすく。街にやさしい！」をカタチにした新モデル「回転式電動塵芥収集車 E-SVN (イー・セブン)」を開発し、本年9月より販売を開始いたします。



回転式電動塵芥収集車 E-SVN (イー・セブン)

E-SVN (イー・セブン) は、ハイブリッド対応の塵芥収集車においてクラス最大級のボディ容量と連続積込作業回数50サイクルを実現し、作業効率の向上をサポートいたします。また、電気モータ作動による騒音レベルを67.7dBに低減し夜間作業時の地域環境に配慮しました。さらに、電動駆動モードでは排気ガスが出ないので地下収集所など排気ガスを嫌う現場環境での作業が可能になります。さらに作業への負担軽減として、投入口の高さ、車両全高ともクラスで最も低い設計としました。作業効率をアップできる機能と、美しいデザイン、そして地域社会への環境を考慮した安全性と操作性を重視し、様々な場面でお役に立てる、モリタエコノスならではの技術を結集した回転式電動塵芥収集車です。

今後もお客様の声を大切にし「より安全に、使いやすく。街にやさしい！」を追求してまいります。

トップメッセージ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、弊社第82期の報告書をお届けするにあたり、営業の概況についてご報告申し上げます。

営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府や日銀による経済政策・金融緩和を背景に、企業業績や雇用情勢に改善が見られ緩やかな回復基調にあります。消費増税後の個人消費の低迷や円安による輸入材料価格の上昇など、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、積極的な営業展開に加え、原価低減の推進を図るとともに、新製品の開発に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。

このなかで、特に消防車両事業が好調に推移した結果、当連結会計年度の売上高は、前期比277百万円増加し、71,943百万円（0.4%増）となり、営業利益は前期比1,546百万円増加し、8,240百万円（23.1%増）、経常利益は前期比1,392百万円増加し、8,375百万円（19.9%増）となりました。当期純利益は、旧本社及び併設する工場の土地売却に伴う減損損失568百万円等を特別損失に計上しましたが、前期比1,182百万円増加し、4,709百万円（33.5%増）となり、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益において四期連続で過去最高を更新いたしました。

セグメント別の概況

■ 消防車両事業

消防車両事業におきましては、マーケットシェアの向上に加え、補正予算関連の売上増もあり、売上高は前期比2,421百万円増加し、38,328百万円（6.7%増）となりました。セグメント利益は前期比1,319百万円増加し、5,710百万円（30.0%増）となりました。

■ 防災事業

防災事業におきましては、医療施設を中心にパッケージ型自動消火設備「スプリネックス」の販売が堅調に推移した結果、売上高は前期比980百万円増加し、18,425百万円（5.6%増）となりました。セグメント利益は前期比100百万円増加し、1,531百万円（7.0%増）となりました。

■ 産業機械事業

産業機械事業におきましては、新製品の拡販と部品・メンテナンスへ注力したものの、ギロチンプレス等の需要が減少した結果、売上高は前期比500百万円減少し、5,490百万円（8.3%減）となりました。セグメント利益は前期比81百万円減少し、224百万円（26.5%減）となりました。

■ 環境車両事業

環境車両事業におきましては、塵芥車の受注及び販売が堅調に推移したものの、衛生車の需要がやや低調に推移した結果、売上高は前期比28百万円減少し、9,698百万円（0.3%減）となりました。セグメント利益は前期比92百万円増加し、777百万円（13.4%増）となりました。

対処すべき課題

当社グループは、経営資源の最適な配分により、事業競争力を最大限に引き出し、企業価値の最大化に取り組んでまいります。

当社グループにおける経営課題及び対応方針は以下のとおりであります。

①市場変化への柔軟な対応

変化の激しい市場の動向に迅速かつ柔軟に対応していくために、顧客ニーズを的確に把握し、他社に先じた戦略を立案してまいります。

企業収益を確保し、成長し続けるためには、他社に真似のできない競争優位性の高い製品の開発、周辺事業の開拓、創出により、従来とは異なる成長分野を生み出すことが重要な課題であると認識しております。

②構造改革の推進

グループ内事業の再編、不採算事業の精査を行うとともに、間接部門を含めた生産性向上と人員の最適化を推進してまいります。

③持続的成長に向けた投資

当社グループの経営資源を適切に配分し、設備投資、事業提携、M&Aといった判断をタイムリーに行ってまいりますとともに、次代を担う人材の獲得・育成に力を注いでまいります。

④ガバナンスの強化

グループ全体のガバナンス体制強化の一環として、グループのコンプライアンス体制の一層の強化を図るため、「コンプライアンス委員会」を設置し、教育・啓蒙活動を展開し、法令遵守の一層の徹底を図るとともに、全グループ従業員に対する会社のコンプライアンス方針の周知徹底に全力で取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

代表取締役社長 尾形 和美

財務ハイライト(連結)

●売上高



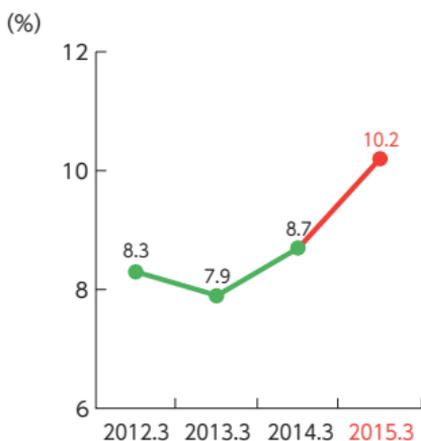
●経常利益



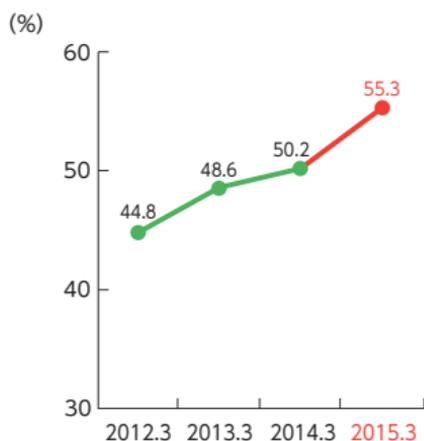
●当期純利益



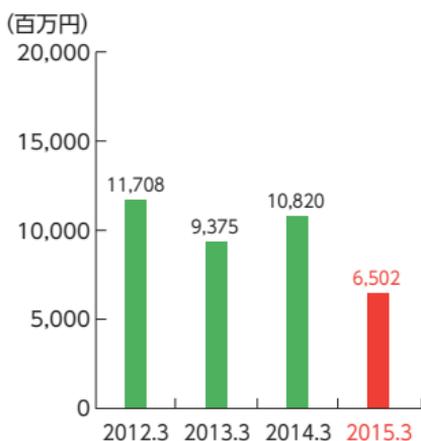
●自己資本当期純利益率(ROE)



●自己資本比率



●有利子負債



連結財務諸表

● 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前 期 (平成26年3月31日現在)	当 期 (平成27年3月31日現在)
資 産 の 部		
流 動 資 産	42,081	41,883
固 定 資 産	43,472	46,655
資 産 合 計	85,553	88,539
負 債 の 部		
流 動 負 債	28,059	27,796
固 定 負 債	13,382	11,169
負 債 合 計	41,441	38,966
純 資 産 の 部		
株 主 資 本	43,229	46,675
資 本 金	4,746	4,746
資 本 剰 余 金	4,331	4,331
利 益 剰 余 金	34,387	38,810
自 己 株 式	△235	△1,212
その他の包括利益累計額	△254	2,319
その他有価証券評価差額金	1,816	3,868
繰延ヘッジ損益	4	△1
土地再評価差額金	△1,804	△1,980
為替換算調整勘定	287	508
退職給付に係る調整累計額	△557	△74
少 数 株 主 持 分	1,135	577
純 資 産 合 計	44,111	49,572
負 債 純 資 産 合 計	85,553	88,539

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
売 上 高	71,666	71,943
売 上 原 価	53,368	53,128
売 上 総 利 益	18,297	18,814
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	11,603	10,574
営 業 利 益	6,694	8,240
営 業 外 収 益	660	688
営 業 外 費 用	371	553
経 常 利 益	6,983	8,375
特 別 利 益	56	4
特 別 損 失	1,312	656
税金等調整前当期純利益	5,726	7,723
法人税、住民税及び事業税	2,781	3,475
法人税等調整額	△463	△425
少数株主損益調整前当期純利益	3,408	4,674
少数株主損失(△)	△119	△35
当 期 純 利 益	3,527	4,709

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,310	4,501
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,565	△3,101
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,939	△4,217
現金及び現金同等物に係る換算差額	90	△27
現金及び現金同等物の増減額	776	△2,845
現金及び現金同等物の期首残高	8,748	9,525
連結の範囲の変更に伴う現金 及び現金同等物の増減額	—	△254
現金及び現金同等物の期末残高	9,525	6,424

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 連結株主資本等変動計算書 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資本金	資 本 剰余金	利 益 剰余金	自己株式	株主資本 合 計
平成26年4月1日残高	4,746	4,331	34,387	△235	43,229
会計方針の変更による累積的影響額			285		285
会計方針の変更を反映した当期首残高	4,746	4,331	34,673	△235	43,515
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△833		△833
当期純利益			4,709		4,709
自己株式の取得				△977	△977
自己株式の処分		0		0	0
土地再評価差額金の取崩			260		260
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	0	4,137	△977	3,159
平成27年3月31日残高	4,746	4,331	38,810	△1,212	46,675

	その他の包括利益累計額							少数株主 持 分	純資産 合 計
	その 他有価証券 評価差 額金	繰 延 ヘッジ 損 益	土 地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調 整累計額	その他の 包括利益 累計額 合 計			
平成26年4月1日残高	1,816	4	△1,804	287	△557	△254	1,135	44,111	
会計方針の変更による累積的影響額								285	
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,816	4	△1,804	287	△557	△254	1,135	44,397	
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当								△833	
当期純利益								4,709	
自己株式の取得								△977	
自己株式の処分								0	
土地再評価差額金の取崩								260	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	2,051	△5	△175	220	482	2,573	△558	2,015	
連結会計年度中の変動額合計	2,051	△5	△175	220	482	2,573	△558	5,175	
平成27年3月31日残高	3,868	△1	△1,980	508	△74	2,319	577	49,572	

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概要

■ 概 要

商 号	株式会社モリタホールディングス
創 業	明治40年4月23日
設 立	昭和7年7月23日
資 本 金	47億4,612万円
大阪本社	大阪市中央区道修町3丁目6番1号
東京本社	東京都港区西新橋3丁目25番31号
事業内容	グループ各社の事業活動の支配・管理及び管理間接業務の受託

■ グループ会社

株式会社モリタ	兵庫県三田市テクノパーク1番地の5 〔はしご車、消防ポンプ車、その他各種消防車両並びに特殊車両の開発・製造・販売〕
モリタ宮田工業株式会社	神奈川県茅ヶ崎市下町屋1丁目1番1号 〔消火器を中心とした消火関連機器、消火装置、その他各種防災機器・設備の開発・製造・販売〕
株式会社モリタ環境テック	千葉県船橋市小野田町1530番地 〔リサイクル処理施設、その他各種ゴミ処理施設の設計施工並びに各種大型油圧機械の開発・製造・販売〕
株式会社モリタエコノス	大阪府八尾市神武町1番48号 〔衛生車、塵芥車等の環境保全車両の開発・製造・販売〕
株式会社モリタテクノス	兵庫県三田市テクノパーク32番地 〔消防車両・救助用資機材等のアフターサービス・メンテナンス並びに電子応用機械器具・情報処理機械器具の開発・製造・販売〕

株式会社 ア ル ボ	静岡県磐田市上神増1479-1
株式会社 関西ポデークラス	兵庫県三田市テクノパーク2番地の3
株式会社 モリタユージー	東京都港区芝2丁目5番6号 芝256スクエアビル8階
株式会社 モリタエンジニアリング	大阪府八尾市神武町1番48号
株式会社 北海道モリタ	札幌市東区苗穂町13丁目2番17号
鹿児島森田ポンプ株式会社	鹿児島市松原町12番32号
株式会社 モリタ東洋	三重県伊賀市佐那具町金神塚1700番地の2
株式会社 ミヤタサイクル	神奈川県川崎市川崎区東田町11-27 住友生命川崎ビル8F
上海金盾特種車輛裝備有限公司	中国上海市浦東新区書院鎮麗正路1515号
南京晨光森田環保科技有限公司	中国南京市江寧經濟技術開發区 天元中路188号
四川森田消防裝備製造有限公司	中国四川省成都市温江区成都海峽兩岸科技园新華大道一段8号
康鴻森田(香港)有限公司	Level 12, 28 Hennessy Road, Wanchai, Hong Kong

■ 役 員

代表取締役会長	中島正博
代表取締役社長	尾形和美
取締役	前畠幸広
取締役	川口和三
取締役	松尾徹
常勤監査役	浅田栄治
常勤監査役	佐々木純
常勤監査役	高野祐介
監査役	太田将
執行役員	浦野ヒロ子
執行役員	坂本直久
執行役員	金岡真一
執行役員	村井信也

株主メモ

■ 株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告の方法	当社のホームページに掲載する。 http://www.morita119.com/kohkoku/index.html
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031
(インターネットホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
上場証券取引所	東京証券取引所

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお問い合わせいたします。

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

人と地球のいのちを守る

MORITA
株式会社モリタホールディングス

大阪本社 〒541-0045
大阪府中央区道修町3丁目6番1号
☎06-6208-1907
東京本社 〒105-0003
東京都港区西新橋3丁目25番31号
☎03-5777-5777

<http://www.morita119.com>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。